

オオニガナ	<i>Nabalus tanakae</i> Franch. et Sav. ex Y.Tanaka et Ono	絶滅危惧 I 類
		キク科
選定理由	生育地が限定されているうえ、個体数が少ない。	<p>写真(箕浦博之)</p> 
形態の特徴	茎は高さ60-80cm。葉は羽状に中裂から深裂し、葉柄は長くて翼がある。頭花は円錐花序につき、直径約4cm、小花は舌状花のみで、黄白色。総苞は長さ12-14mm。	
生態的特徴	湿地に生育する。花期は9-11月。	
分布状況	本州の東北地方から近畿地方に分布する。岐阜県では県西に見られる。	
減少要因	湿地の開発。	
保全対策	湿地の保全。	
特記事項		
参考文献		
		

文責: 高橋弘